

宇都宮の民話

一侍(いちざむらい)

田原地区のはずれに一侍という場所があります。

そのむかし、この近くには太平(うでら)と呼ばれる山があり、太平備中守(うでらびっちゅうのかみ)というお殿様が城を築いて住んでおりました。この辺り一帯を領土としていましたが、宇都宮家の力が強かったために、お殿様も城も失ってしまいました。家臣は散り散りになって去っていくしかありませんでした。

そうして、たった一人だけの家老が残りました。一人残った家老は、亡くなったお殿様を弔(とむらう)とこの地にとどまることを決めたのです。山の奥深くにお寺を建て、毎日お経を唱えて暮らしました。たった一人の侍が住んでいるということで、里の人たちはこの場所を一侍と呼ぶようになったそうです。

また、この一侍の名前の由来は、源氏に敗れた平家か、関ヶ原の合戦に敗れた落武者(おちむしゃ)がやって来た土地とする説もあります。

(終わり)

